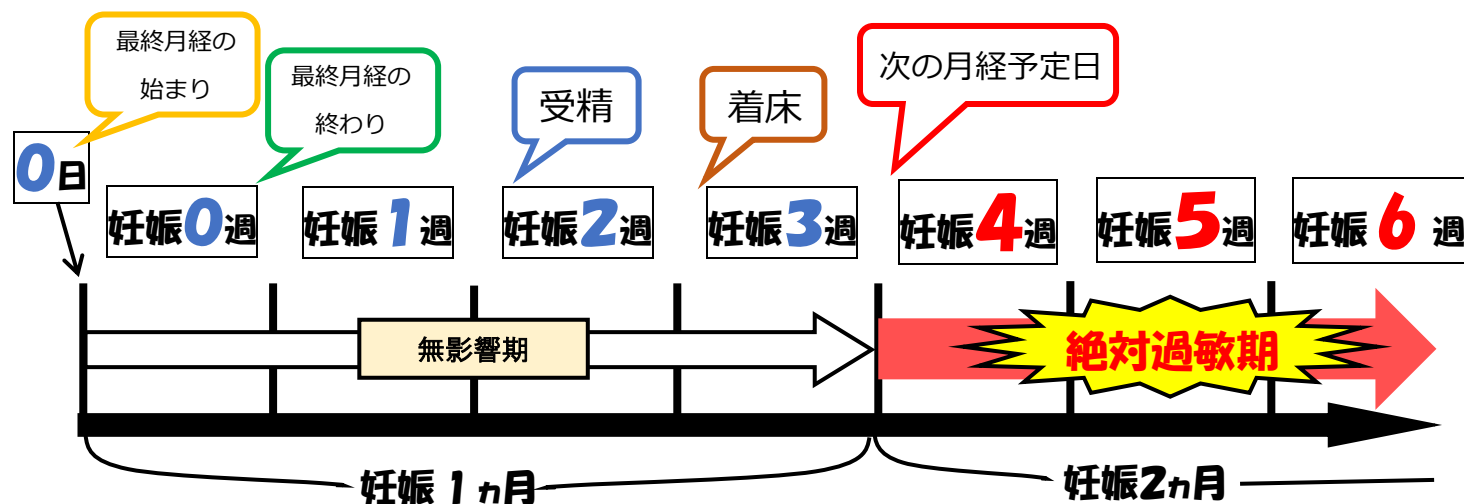


男性も将来のために
にしっかり覚えて
おきましょう。

妊娠と医薬品 ～将来のために～

妊娠の週数は、最終月経の始まった日を0週0日として数えていき、出産の予定日は40週0日です。妊娠周期によって、医薬品の服用がお腹の赤ちゃん(胎児)に大きく影響する時期があります。



無影響期 (妊娠3週末まで)	胎児に奇形は生じない
絶対過敏期 (妊娠4週～7週末まで)	医薬品の影響で胎児に奇形が生じやすい最も危険な時期!!!
相対過敏期 (妊娠8週～15週末まで)	胎児に奇形が生じる可能性はあり、まだまだ注意が必要!
比較過敏期～潜在過敏期 (妊娠16週～出産)	胎児に奇形は生じないが、胎児の成長に影響が出る

困ったことに、一番危険な絶対過敏期(＝妊娠4週から)は、本来であれば次の生理が始まる週なのです。計画的な妊娠でなければ生理が遅れていると思ってしまう、妊娠していることに気づかず、うっかり医薬品を飲んでしまうかも……。将来のためにしっかり理解しておきましょう。

健康やお薬などについて、気になることがある方は、相談薬局・出張相談会で薬剤師に気軽にお尋ねください。

《 出張相談会 ― 保健室に学校薬剤師が来ます 》
ドラッグレターの内容、医薬品や健康、薬物乱用など
について、相談・聞きたいことがある人は保健室まで!
3月6日 16時30分～17時30分

作成・発行元 北陸大学薬学部
准教授 大柳賀津夫(学校薬剤師)
講師 岡本晃典(薬剤師)
6年生 村中佑晟・木山美佳

